

# 第 1 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成18年10月12日(木)5校時  
学 級 1年B組(男18名 女14名 計32名)  
指導者 講師 高橋 寛 之

- 1 主題名 「生命の尊さ」 内容項目 3 - ( 2 )(生命の尊重)
- 2 資料名 「花に寄せて」 (出典「東京書籍 明日をひらく1」岩手県版)
- 3 主題設定の理由

## (1) ねらいとする価値について

学習指導要領の内容項目3 - ( 2 )に、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」とある。生命は自分だけのものではなく、両親や祖父母、周囲の人達とのかかわりの中で営まれているものであり、一時の衝動で損なわれることがあってはならない。自我に目覚め、人生について思索し始めるこの時期に、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を身につけることは、極めて重要なことである。近年、生活様式が変化し、自然や人間とのかかわりの希薄さから、生命の尊さについて考える機会が減少している。それが生命を粗末にする軽はずみな行動につながり、社会問題に発展することもある。

このような状況において、自他の生命を尊重することの大切さを理解させ、たとえどんなに厳しい状況になったとしても、人間としての誇りを失わず自分に与えられた生命を精一杯生き抜こうとする意欲をもたせることが重要である。

## (2) ねらいに関わる生徒の実態について

学級全体としては、素直で何事にも積極的に取り組む生徒が多い。道徳の時間では、積極的に挙手して発言をする生徒は多くないが、他の人の考えを真剣に聞き、自分の考えと照らし合わせながら自分の考えを深めようとする姿勢が見られる。

今年5月に実施した道徳性検査では、「自然や崇高なものとのかかわり」に関することについては、おおむね前向きな発達を示しているものの、その中の「生命の尊重」に関する部分で見ると、一部の生徒において発達が不十分である傾向が見られた。

そこで、本資料を通して、星野富弘さんの生き方から謙虚に学び、生命を尊重することの大切さを身につけさせていくことは、極めて重要であると考えた。本資料から、「命の大切さ」や「人間としての誇りをもって、精一杯生き抜くことの意義」を生徒に考えさせ、一日一日を懸命に生きることの尊さを考えさせていきたい。

## (3) 資料について

本資料は、重い障害にも屈することなく、詩や絵画の創作に取り組んでいる星野富弘さんの著書からの抜粋である。中学の体育教師として希望にあふれて赴任した星野さんが、クラブ活動の鉄棒の演技指導でのケガで、肩から下の自由を失ってしまう。そして、長い闘病生活の後、口に筆をくわえて絵を描くことに生きる喜びを見出し、展覧会を開いた場面を中心に構成されている。生きることに消極的だった星野さんが、口で絵を描くことを通して生きる喜びを見だし、多くの人々の愛に支えられながら、強く美しく生き抜いていこうとする姿が描かれている。

この資料を通して、極めて重い障害に負けることなく、生命のあるかぎり強く生き続けようとする姿を見つめさせ、生命を尊重する生き方について考えさせたい。

## 4 指導について

資料をじっくり読ませ、しみじみとした感動を通して、生命尊重の自覚を深めさせたい。重い障害に負けず、絶望の淵からはい上がって一生懸命に生きようとする作者の姿から学ぶことがこの資料を扱うねらいである。

本時では、作者が描いた絵を展覧会に出展してからの心境と、展覧会を見た人たちの評判を聞いてからの心境の変化を考えさせていきたい。その中で、ここで本時のねらいとする価値に迫っていきたい。その上で、「語りかけ帳」から星野さんの生き方に共感したことを発表させ、生命の尊さを自覚しつつ力強く生きていこうとする意欲につなげていきたい。

5 本時の指導

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意
導入 10分	<p>1 写真資料、画集、「星野さんの歩み」から星野さんの生い立ちや境遇について知る。</p> <p>2 資料の星野さんがケガをした場面を読み、話し合う。 肩から下の自由を失った星野さんはどんな気持ちだったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶望した</li> <li>・悲しい</li> <li>・何もかも失ってしまった</li> <li>・なぜ、こんな姿になったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真資料や画集などを提示し、星野さんの体育教師としての希望や、手足の自由を失った悲しい境遇への失望感に共感できるようにする。</li> <li>・絶望の淵から追いやられた状況に共感させ、何とか這い上がれそうに思えたのはなぜかという意識を持たせる。</li> </ul>
展開 37分	<p>3 星野さんの絵の展覧会が開かれた場面を読み、話し合う。 展覧会が開かれたとき、星野さんはどのような気持ちだったか。</p> <p>展覧会を見た人たちの評判を聞いたとき、星野さんはどんな気持ちになったか。</p> <p>星野さんの中で息づき始めた「何か新しいもの」とはどんなものだろうか。</p> <p>4 「語りかけ帳」を読み、星野さんの生き方に共感したところを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はずかしい</li> <li>・不安だ</li> <li>・自分の絵を見られたくない</li> <li>・自分の絵を批判されそう</li> <li>・絵の評判にびっくりした</li> <li>・みんなが感動してくれるなんて、信じられない</li> <li>・うれしい</li> <li>・生きることに希望を見いだした</li> <li>・障害を乗り越えて生きようとした</li> <li>・絵を描くことが生きる喜びを見いだした</li> <li>・自分を表現できる可能性があった</li> <li>・どれだけでいねいに自分の人生を生きるかが大切</li> <li>・人が持てるかぎりの力で一生懸命なしとげようとしたこと</li> <li>・人間というもの、生命というものの、限りない可能性を知った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の絵の価値がわからず、「体を消してしまいたい」と思っている複雑な心情を押さえる。</li> <li>・予想外の反響を知り、喜びを感じ、自分が絵を描くことの意義に気付き始める星野さんの心情に迫りたい。</li> <li>・絵を見たまわりの人たちの反応の中で、星野さ自身が気づいた新しいものを共感させる。</li> <li>・ワークシートへの記入</li> <li>・星野さんの絵にふれた人々の感動から、自分自身の感動と重なる部分を意識させ、価値の内面的な自覚を図る場とする。</li> </ul>
終末 5分	<p>5 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を通して、命の尊さを伝える。</li> </ul>

6 評価

かけがえのない命の尊さを自覚し、力強く生きようとする意欲が高まったか。

7 資料分析図（花に寄せて）

主な場面	主人公の意識	生徒の意識	意識の焦点化	主な発問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩から下すべての自由を失った「わたし」には、病院の天井だけ見つめる日々しかなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶望した。</li> <li>・生きたくない。</li> <li>・何とかしたい。</li> <li>・命あるかぎり生きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶望した。</li> <li>・悲しい。</li> <li>・何もかも失ってしまった</li> <li>・なぜ、こんな姿になったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の天井を見つめる星野さんの苦しみを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩から下の自由を失った星野さんはどんな気持ちだったか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることなら体を消してしまいたいと思いながら、落ち着かない気持ちで天井を見つめていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の絵を見られるのがはずかしい。</li> <li>・自分の絵がつまらない。</li> <li>・自分の絵を悪く言われそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はずかしい。</li> <li>・不安だ。</li> <li>・自分の絵を見られたくない。</li> <li>・自分の絵を批判されそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会が開かれたときの不安な様子を感じとらせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会が開かれたとき星野さんはどんな気持ちだったか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女子大生やつきそいのおばさんたちが星野さんの絵を見て涙した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当だろうか。</li> <li>・半信半疑だ。</li> <li>・自分の絵が認められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の評判にびっくりした</li> <li>・みんなが感動してくれるなんて信じられない。</li> <li>・うれしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想以上の評判にとまどっている星野さんの心情をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会を見た人たちの評判を聞いたとき、星野さんはどんな気持ちになったか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは胸をなでおろした。と同時に、なでおろした胸に、なにか新しいものが、息づき始めたような気がした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵が生きる喜びを与えてくれた。</li> <li>・生きることのすばらしさを知った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きることに希望を見いだした。</li> <li>・障害を乗り越えて生きようとした。</li> <li>・絵を描くことが生きる喜びを見いだした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なにか新しいものが、息づき始めたような気がした」という部分から、本時の資料の価値に迫る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星野さんの心の中で息づき始めた「何か新しいもの」とは、どんなものだろうか。</li> </ul>

花に寄せて

肩から下の自由を失った

- ・絶望した
- ・悲しい
- ・何もかも失ってしまった
- ・なぜ、こんな姿になったの  
だろう

展覧会が開かれた

星野さん  
の作品

- ・はずかしい
- ・不安だ
- ・自分の絵を見られたくない
- ・自分の絵を批判されそう

展覧会の絵を見た人たちの評判

- ・絵の評判にびっくりした
- ・みんなが感動してくれるなんて  
信じられない
- ・うれしい

「なにか新しいものが、息づき  
始めたような気がした」

- ・生きることには希望を見いだした
- ・障害を乗り越えて生きようとした
- ・絵を描くことが生きる喜びを見いだした
- ・自分に表現できる可能性があった

星野さんの生き方

- ・人生を深くていねいに生きている
- ・心の強さ
- ・人間、生命の限りない可能性

9 道徳ワークシート

道徳ワークシート「花に寄せて」
1年B組 番 氏名
星野さんの中で息づき始めた「何か新しいもの」とはどんなもの だろうか。